総合資料館だより

2004.4.1　No.139

▲トップページ(上)、大正大礼京都府記事関係写真材料(左下)、延喜式内並国史見在神社考証(右下)

デジタルデータベース「京都北山アーカイブズ」公開

明治・大正期の古写真や、重要文化財である「京都府行政文書」など、当館が所蔵する貴重な第一級の資料をデジタルデータ化した「京都北山アーカイブズ　－京都府立総合資料館所蔵資料データベース－」が完成し、４月１日(木)から当館内で公開します。

３か年計画で、これら資料のデジタル画像を約１万８千点作成する予定であり、今回はその１年目として約６千点を公開します。最大１億画素にも及ぶ超高精細な撮影が可能なデジタルカメラも使用し、色彩豊かな絵図などが忠実に再現されています。

目次

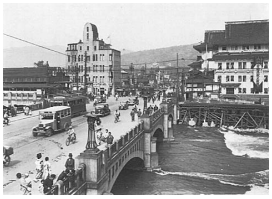
デジタルデータベース「京都北山アーカイブズ」公開 ……1
東寺百合文書の翻刻出版を開始しました ……4
寄託資料紹介「大國家文書」……6
文献課の窓から「日本十進分類法(NDC)」 ……8
平成16年度の事業予定について ……9
歴史資料課の窓から「ヘレン・ケラーと京都の福祉」 ……10
最近の収集資料から……11
臨時休館のお知らせ、府民講座のお知らせ、友の会事務局から　他 ……12

京都北山アーカイブズ

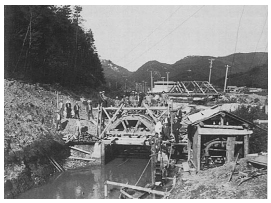
「京都北山アーカイブズ」は、当館所蔵資料の中から、府民の関心が高く、今後の保存が求められる歴史的価値の高い資料をデジタルデータ化して、広く利活用していただくための画像データベースです。

この事業は、府政の重要課題について、外部の専門家等とともに施策作りを行う「アクションプラン」の一つである「京の文化振興プラン」（平成14年12月策定）に基づき実施するものであり、平成15年度から17年度までの３か年計画で、最終的には約１万８千点のデジタル画像を作成する予定です。

１年目の今回公開する画像は約６千点で、次の６つの資料群からなります。



▲黒川翠山撮影写真資料



▲琵琶湖疏水工事写真帖

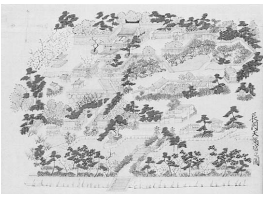
「黒川翠山撮影写真資料」（1,477点）

明治末期から昭和初期における京都の代表的な写真家である黒川翠山が撮影した膨大な写真のうち、社寺、史跡、街並など、主に京都に関するものを集めた写真資料です。同氏の御子息から当館に寄贈いただきました。

「琵琶湖疏水工事写真帖」（79点）

明治期の琵琶湖疏水工事の写真帖です。京都府会議員として琵琶湖疏水工事の際に尽力した中村栄助の三男にあたる元京都市長、高山義三氏の旧蔵資料です。

▲大正大礼京都府記事関係写真材料



▲延喜式内並国史見在神社考証

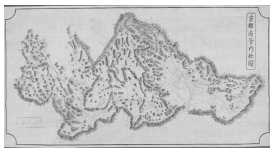
「大正大礼京都府記事関係写真材料」（435点）

大正天皇の即位式に関する京都府の記録である「大正大礼京都府記事」編纂のために収集した写真を収録したものです。即位式や京都の街の装飾や奉祝行事の様子などがわかります。

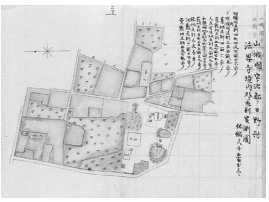
「延喜式内並国史見在神社考証」（136点）

京都府管内における延喜式内神社及び国史見在神社の調書で、明治初期に教部省が神名牒作成のために各府県に出した指示により、京都府が調査編纂したものです。

今回は同文書のうち、調書の添付書類である神社の境内見取絵図を公開します。



▲京都府管内地図



▲社寺境内外区別取調

「京都府管内地図」（１点）

明治９年に豊岡県が廃止され、丹後国５郡と丹波国天田郡が京都府に編入されたことにより、現在の京都府の管轄区域が成立しましたが、この管内地図はその直後の状況を示すものと思われます。横幅が３ｍにも及ぶ、掛け軸の大型図面です。

「社寺境内外区別取調」（3,786点）

明治初期に、社寺上地令及び地租改正にともなう社寺境内外区別事業により作成されたものです。

境内外の図面と、各社寺の所在地や境内地の状況等を記した文書により構成されています。

デジタル画像の作成

これらの資料をデジタルデータ化するのには、一般的には次の２つの方法があります。

一つは資料をデジタルカメラにより直接データ化するもので、光を電圧に変える半導体（CCD、CMOS）が近年、急速に高解像度化したことにより、従来のマイクロフィルム並みの解像度が得られるようになっています。

メリットとしては、作業工程が単純であること、また、直接データ化するため、画像がより原本に近く、鮮明であることがあげられます。

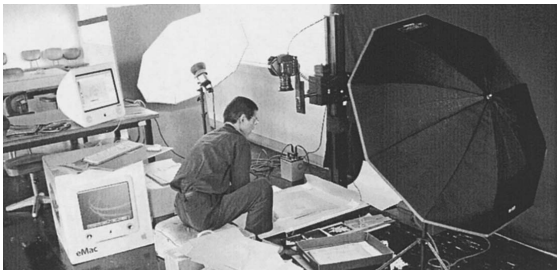
もう一つの方法は、資料を従来のアナログカメラによりマイクロフィルムに撮影した上で、それをスキャナーで読み込み、デジタルデータ化するものです。

最も大きいメリットは、実物可視データとして500年は保存できるといわれるマイクロフィルムがバックアップデータとして、そのまま使えることがあげられます。

この事業では、データの劣化が本質的にあり得ないデジタルデータをより高い精度で作成し、保存することを目的としていることから、直接デジタルカメラでデータ化する方法を選択しました。

今回の撮影では、そのほとんどを、1,000万画素程度のデジタルカメラで撮影していますが、横幅が３ｍを超える京都府管内地図を始め

とした大型図面では、1,000万画素でも解像度不足となるため、１億画素を超える解像度のデジタルカメラを使用しています。



▲撮影風景

ただし、このようにして作成した画像も、そのままではデータ容量が１枚当たり60 MBと大き過ぎるため、一般のパソコンではスムーズに表示させるのが困難になります。

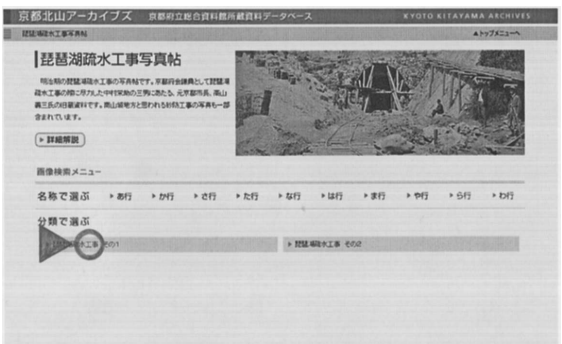
そのため、JPEGといわれるデータ圧縮方式により、データ容量を200 KB（0.2 MB）程度に圧縮して閲覧に供しています。また、より高精度の超拡大画像には、1,000 KB（1 MB）程度に圧縮したデータを使用しています。

館内での閲覧

このようにして作成されたデジタル画像は、館内に設置してある２台の端末でご覧になれます。ホームページの形態になっており、ボタンや画像をクリックするだけで簡単に操作できます。以下の要領で操作してください。

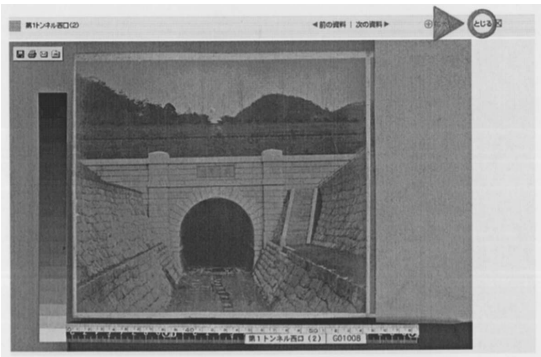
▼**「トップページ」**　資料名を選択してクリックしてください。

▼**「各資料群ごとのトップページ」**　名称（50音順）又は分類で選択してクリックしてください。



▼**「サムネイルページ」**　50枚程度のサムネイル画像と、画像の説明データが表示されます。サムネイル画像を選択してクリックしてください。

▼**「拡大画像」**　拡大画像が表示されます。古写真では、これで終わりですので、「とじる」ボタンをクリックして、前の画面に戻ってください。



また、絵図では、更に「拡大する」ボタンをクリックすれば、約５倍の大きさの「超拡大画像」を表示できます。ただし、社寺境内外区別取調（文書）については、超拡大画像はありません。

なお、公開資料のうち、社寺境内外区別取調（絵図、文書とも）については、学術調査研究目的のみの利用としており、図書閲覧室横のマルチメディアコーナーの端末ではご覧いただけません。文書閲覧室で閲覧申請の上、同室内の端末でご覧ください。

また、有料でカラープリンタでの印刷もできます。複写手続については、職員にお尋ねください。

インターネットでの公開

インターネット上でも、サンプル版として約400点を公開しています。総合資料館ホームページのトップページからお入りいただけますので、是非、ご覧ください。

（http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/）

東寺百合文書の翻刻出版を開始しました

当館では、所蔵している国宝・東寺百合文書（とうじひゃくごうもんじょ）の翻刻（ほんこく）事業を開始し、本年３月、思文閣出版から第１巻を発行しました。この事業の概要をご紹介します。

１ 事業の概要

東寺百合文書は、昭和42年、文化財保護の目的で京都府が購入したもので、以後、当館で整理・保存・公開を行ってきました。平成９年、国宝に指定され、さらに利用を図る見地から、活字化した史料集の刊行が待たれていました。後述の通り、東京大学において平仮名函（ほこ）の翻刻が進められており、当館では片仮名函から事業を開始します。

当面、第１期として平成15年度から10年間で、各年度１巻、10巻を刊行する計画です（全60巻の予定）。

２ 東寺百合文書とは

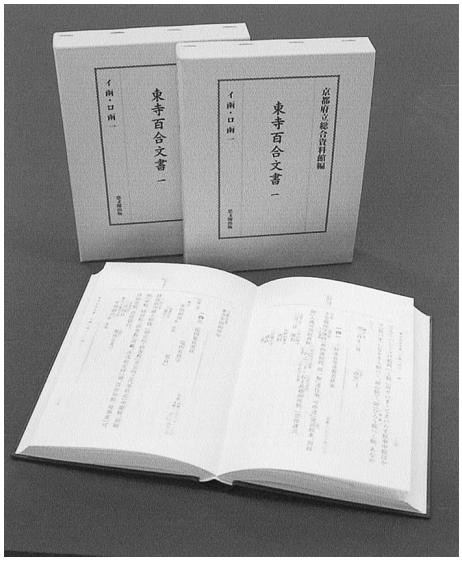
東寺（教王護国寺、京都市南区）に伝来した古文書です。時期は奈良時代中期から江戸時代初期にわたり、総数約18,500点に及ぶ、我が国最大の中世史料群です。江戸時代、加賀藩主前田綱紀から百の桐箱が寄進され、それに収納・保存されたところから百合（百箱の意味）文書と呼称されました。各箱は片仮名と平仮名でイ・ロ・ハ…、い・ろ・は…の名称が付され、１箱に多くて数百点の文書が収められています（文書も含めた史料群としては、イ函のように「函」の文字が明治時代以来使われています）。

３ 翻刻とは

毛筆による崩し字で書かれた草書体・行書体の原文を、楷書体の活字に置き換え、読みやすくすることです。これにより誰にでも判読できるようになり、利用者ごとの必要性、興味や関心に基づく検索や調査・研究が容易になります。同時に、文中の人名や年代に注釈・推定を加えることでもあり、日本史理解の一助となります。

４ 既存の翻刻

東寺百合文書は中世史の基本史料ということで、多くの史料集に収録されています。



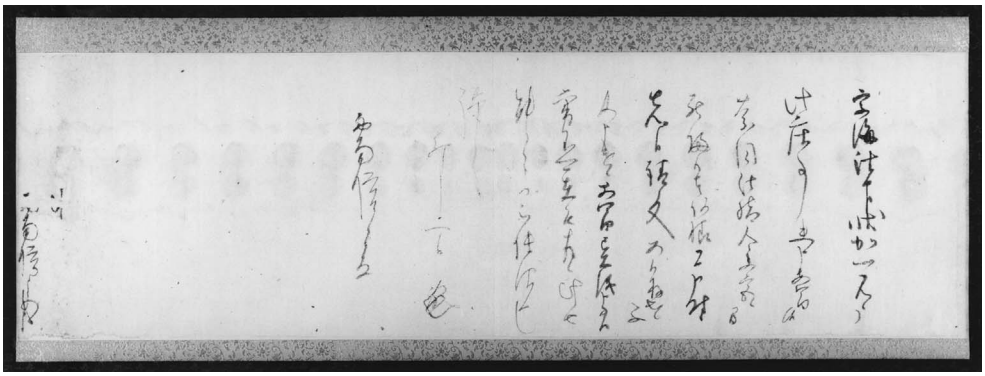
時代別史料集では『平安遺文』、『鎌倉遺文』、『大日本史料』にその時代の文書が含まれています。地域別では各自治体の史料集にその地域内の荘園関係の文書などが収録されています。『岡山県史』、『広島県史』、『兵庫県史』、『愛媛県史』、『吹田市史』、『相生市史』などです。荘園別では『山城国上桂庄史料』、『若狭国太良荘史料集成』が最近刊行され、文書の種類別では『室町幕府文書集成　奉行人奉書篇』、『東寺廿一口供僧方評定引付』（引付は寺僧の会議記録）などがあります。

これらは大量点数の文書を含むものもあるとはいえ、一定の視点に基づいて抽出した文書について行ったものであり、部分的な翻刻にとどまっています。これに対し全体的翻刻を企図したものが、東京大学史料編纂所の『大日本古文書　家わけ第十　東寺文書』であって、全国的な家分けの史料集叢書の一つとして刊行されています。これは東寺百合文書のうち平仮名の函から翻刻を開始し、第１巻として「い函～に函上」が大正14年に刊行され、最新刊（平成15年刊）は第13巻「よ之三・た之一」となっています。

このほか東寺百合文書と同性格のものに教王護国寺文書（京都大学蔵）、東寺文書（東寺蔵）がありますが、前者は『教王護国寺文書』として刊行が完結し、後者は『東寺文書聚英』にその大部分が収められています。

5 翻刻の実例

翻刻の実例として第１巻所収の「イ函１５５号」をあげてみます。



▲三宝院満済書状（イ函155号）

「三宝院御状」

「　（墨引）

西南院人々御中　」

宗海法印状、加一見候了、

此庄事、未申安富候、

慶円法橋令参宮候間、

罷帰候者、何様可申付候、

先日請文、如御存知候、不

及申遣候、安富異儀申事ハ、

曾不可在由存候、此由

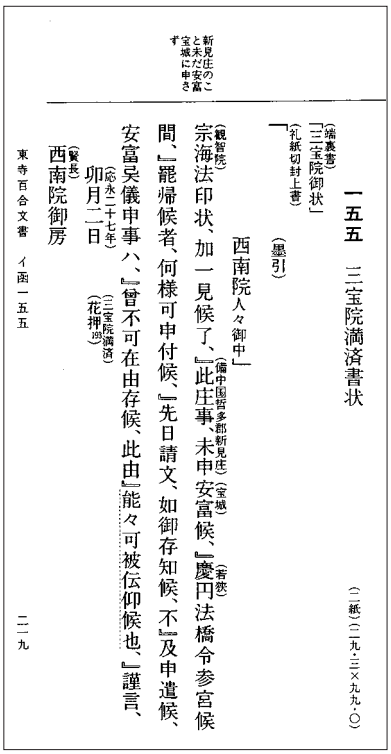
能々可被伝仰候也、

謹言、

卯月二日　（花押）

西南院御房

１行目は、この文書の受取側が後の備忘のため文書の性格・概要などを書き記したもので、その位置から端裏書（はしうらがき）と呼ばれる部分です。２・３行目は、差出側が本文を書き終えた後、巻き上げた文書の外側に署名や宛名を書く部分で、上書と呼ばれます。（墨引（すみひき））は封じ目の上に引かれる墨線で、現代では「〆」や「緘」が使われるところです。この２か所は本文と区別して「　」で括り、部分の名称の注記を施します。



一五五　三宝院満済書状　（一紙）（二九・三×九九・〇）

（端裏書）「三宝院御状」

（礼紙切封上書）「（墨引）

西南院人々御中」

（観智院）宗海法印状、加一見候了、『（備中国哲多郡新見庄）此庄事、未申安富候、（宝城）』（若狭）慶円法橋令参宮候間、『罷帰候者、何様可申付候、』先日請文、如御存知候、不『及申遣候、安富吳儀申事ハ、』曾不可在由存候、此由『能々可被伝仰候也、』謹言、

（応永二十七年）卯月二日　（三宝院満済）（花押）

（賢長）西南院御房

新見庄のことと未だ安富宝城に申さず

東寺百合文書　イ函一五五　二一九

▲第１巻本文219頁より

４行目からが本文です。「宗海法印（そうかいほういん）」は東寺の僧侶で観智院の院主です。「此庄」とは東寺領の荘園である新見庄のことで、現在は岡山県新見市に当たりますが、中世では備中国哲多郡と呼ばれます。「安富」は人名で、新見庄の代官安富宝城（やすとみほうじょう）のことです。「慶円法橋（けいえんほうきょう）」は東寺の寺官で、若狭という仮名（けみょう）（実名に対する仮の名、通称）を持っています。（花押）は差出人のサインで、三宝院満済（さんぼういんまんさい）のものです。宛名「西南院」は賢長（けんちょう）という僧侶の院号です。なお、「⌙」は、原本ではここで改行しているという記号です。

満済は応永16(1409)～18年と同23～28年の間、東寺長者の地位にありますが、うち弟子の賢長が凡僧別当を勤めるのは２度目の方です。そしてこの期間内で最勝光院方（さいしょうこういんかた）（新見庄を所領とする寺内組織）の奉行が宗海であったことがわかっているのは応永27年です。従ってこの文書は同年のものであることがわかります。これらの検討作業の結果を人名・地名・年代の注記として該当文言の脇に加えます。

また、この実例にはありませんが、仮名書きでそのままでは理解しにくいものには漢字を当て、解りやすくしています。第１巻の範囲でいえば、「さうてん（相伝）」、「御けうそ（教書）」、「てうと（調度）」、「さをひ（相違）」などです。また誤字・当て字に正しい文字を振ったり、脱字や衍字（えんじ）（誤って語句の中に入った不要な文字）を指摘しておくのも作業の一つです

こうした翻字・校訂作業のほか、紙数・法量など料紙に関する情報、封紙や前後欠があってその所在がわかる場合の書誌情報、花押その他活字化できない部分の写真掲載などから本翻刻を構成しています。

第１巻の概要

書　　名	「東寺百合文書　第一巻」
内　　容	イ函(全)～ロ函の一部　268点
規　　格	Ａ５判
頁　　数	490頁
定　　価	9,500円（本体価格）
発　　行	(株)思文閣出版

寄託資料紹介

大國家文書

この度、朝廷に仕える役人である地下官人（注①）で、宮中で正月18日に行われる火祭り行事、左義長（三毬打注②、写真１）を掌っていた大國家に伝わった資料739点が当館に寄託されましたので、その概要についてご紹介します。

▲写真１

大國家は、「大黒党」の名で戦国期の公家の日記等にその活動の様子を確認できるように、古くから宗教的な芸能に関わってきた歴史ある家です。更に近世には、蔵人方（天皇に近侍し伝奏・儀式その他宮中の大小の雑事を掌る役所）の陰陽の事（注③）を掌る地下官人となり、万治２(1659)年、西院村2,800石余のうち３石の知行地を拝領し、元禄９(1696)年、御所近くの塔之段毘沙門町に居を構える等、左義長役等を勤める禁裏直属の陰陽師としての立場を確かなものにしました。また、白川村等の京都周辺の村々の雨乞いや竈祓い、公家や町人等の占いや御祓い等にも携わっていました。

その後、近代になると陰陽師としての主だった活動はなくなり、御当主の方々は奈良県職員や司法省職員、京都市会議員、奈良市長等の公職につかれました。

大國家文書は、以上のような近世前期から昭和20年代まで約350年間の家の歴史を今に伝えています。主な内容は以下のとおりです。

＜家記・由緒に関する資料＞

大國家の由緒書、家の記録がまとめられています。それによると大國家（大黒家）はもとは長谷川姓で、古くから天皇家と関わりを持ってきた家であったことがわかります。また、大國家と縁戚関係にあった紀州小山家（足利義持により印南本郷地頭職を安堵された土豪。ただし実際縁組したのはその分家筋の美濃国小山氏）の由緒書や伝来した中世文書の写等もあります。

＜地下官人に関する資料＞

大國家は地下官人として蔵人方に属していました。それを束ねる出納平田家との往復文書、叙位任官に関するもの、町の諸役免除のこと、知行地西院村に関係するもの（写真２）等があります。また、地下官人を勤めていた関係からか、宮中行事の次第書や名鑑等、宮中に関する情報の写が多く作成されています。近代に入って組織された地下官人の親睦団体「平安義会」に関するものもあります。

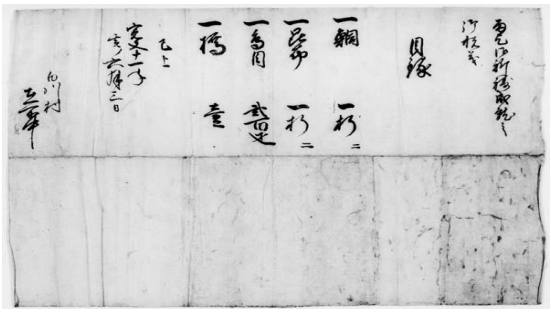
▲写真2

＜陰陽師の活動に関わる資料＞

大國家は宮中の年中行事として、正月18日の左義長を執行する役、6月土用に御所内の井戸で行う水合の御祓いする役、9月の重陽の節句に常御殿の西の庭へ菊を並べる役を勤めていました。それら行事に関する由来や作法、活動の状況等をまとめているものがあります。左義長役については関係する資料も多いのですが、特に近世後期になって実際に行事に関わる役目（下役頭取2人役者9人。ただし人数は時期によって変更）を町人等を組織して行わせていた状況がわかる「御三毬打下役人数書控」、「御三毬打下役届日記」や下役との書状等、興味深い資料があります。

また、宮中の行事だけでなく、白川村・一乗寺村・修学院村・岩倉村等に出かけ、札納め・雨乞祈祷・竈祓い等を行ったり、公家屋敷や町に出向き各種占いや御祓いをしていました。その中でも白川村での雨乞い神事は古くから関わっているのか、寛文11(1671)年の雨乞祈祷の礼状と目録（写真３）があります。そのような大國家の日々の活動の様子を記したものとして、幕

末の弘化２(1845)年から明治３(1870)年にかけての日記が断続的ですが10冊残っています。併せて陰陽師の活動に欠かせない勘文（先例、日時、方角、吉凶などを調べて上申したもの）、祭文（祭祀の際、神前で奏することば。独特の節をつけて読む）、秘伝書や筮竹・算木等占いの道具が伝えられています。ほかに、大國家が祭っていた大国社について文久３(1863)年の大国殿造営の一件などがあります。



▲写真3

大國家は以上のように近世には陰陽師として活動をしていましたが、その頃の陰陽師を統括していた公家の土御門家支配からは独立した立場をとることもあり、時には対立することもあったようです。このような関係をうかがえる資料として「土御門一件之記」、「土御門家一条越書」や「京都上組中　御許状写」等があります。

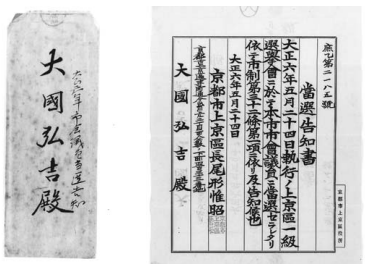
＜幕末維新期の資料＞

幕末維新期に大國有寿氏は、尊王攘夷派の公家鷲尾隆聚（戊辰戦争で東北を転戦後、大和五条県、東北若松県知事等に任ぜられる）や滋野井公寿（佐渡鎮撫使、甲府県知事（現山梨県）等に任ぜられる）に従って活動していました。有寿氏は、主に鷲尾氏とともに各地で働いていましたが、明治元年10月から明治３年にかけては甲府県知事に任ぜられた滋野井氏に付き添っていました。その頃の活動の様子を知ることのできる資料が断片的に残されています。中でも滋野井公寿の甲府滞在中については、滋野井氏書記方としての日記が残されており、当時の状況を具体的に知ることができます。

また、幕末の頃の事件や情勢などに関する書留、御触・達書の写が多数書き留められています。

＜近代以降の公職・役員としての資料＞

明治以降、地下官人身分・陰陽師という職業はともに廃止され、以後、大國家では公職につくことが多くなります。まず大國有寿氏は明治５年から９年まで奈良県職員（合併により最後は堺県）、９年から司法省職員となり、大正２年名古屋控訴院を退職まで勤め上げました。この時期の資料として、奈良県下吉野川の船運送や材木等についての一件書類や、司法省職員時代の書翰や辞令等があります。次の代の弘吉氏は京都市の各種委員を委嘱されていましたが、大正６年には京都市会議員に当選(写真４)、同14年から昭和４年までは奈良市長を勤めました。各種委員への委嘱状、議員の当選通知、奈良市長退任挨拶に対する礼状等がまとまって残っています。



▲写真4

＜その他＞

各種神道書、本草学・軍学・漢籍写本類、古典籍等からの抜書などが多く残され、諸学問への豊かな教養が感じられます。また住居していた塔之段町に関するものもあります。

以上のように、大國家文書は幅広い内容の資料群で多様な面を持っています。特に近世の地下官人と宮中の関係や、公家土御門家の陰陽師の統轄のあり方等を知ることのできる貴重な資料です。

たくさんの方のご利用をお待ちしています。

（歴史資料課・古文書担当　辻真澄）

＜注記＞

①地下官人とは、清涼殿の殿上の間に昇殿する資格を与えられていない６位以下の朝廷に仕える役人のことです。朝政を支えるとともに、貴族諸家の家政運営にも関わるなど広範な活動を展開しました。

②左義長とは「三毬打」とも書き、小正月の火祭りの行事です。大國家の左義長役は、正月18日に清涼殿東庭に青竹を立て吉書や扇などを結び付けて飾ったものを焼き、その時、鬼の姿をした者や童子が囃子にあわせ棒を振ったりして舞うものでした。民間での「どんど焼き」に似たものです。

③陰陽（陰陽道）とは、陰陽五行説に基づいて天文・暦・占いなどを扱う法術のことで、これを司るのが陰陽師です。

日本十進分類法（NDC）

毎回、文献課の仕事の一端をご紹介しているこのコーナーですが、今回は日本十進分類法についてご説明します。

不特定多数の人々が利用する資料館のような施設では、利用者や職員が誰でも素早く、確実に求める資料にたどり着くことができるよう、きちんと整理して配架（書架に本を並べること）しておく必要があります。

現在、日本の多くの図書館が採用している資料の書架への並べ方が、資料の内容による分類配架です。文学について書かれた資料は文学についての資料が集まる場所に、日本史の資料は日本史の場所に、といった具合に同じ主題の資料を１か所に集めよう、という配架の仕方です。こういった配架方法をとることにより、必要とする資料の書名も著者もわからない場合でも、その内容についての資料が集められた書架に行けば、適切な資料にたどり着くことができるのです。

主題、つまりその資料が何について書かれたものであるか、によって配架する場所を決めるわけですが、その内容を判断する拠りどころとなるのが、今回のテーマである日本十進分類法です。

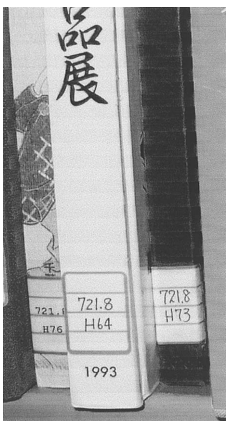
日本十進分類法（Nippon Decimal Classification　以下NDC）はその名称のとおり、10ずつに区切って細分化された分類体系に、あらゆる主題を区分けしていく分類方法です。ここでは例として、日本画について書かれた資料の分類を考えてみましょう。まず、第一次区分として、扱われている主題により以下の10の分類、すなわち、0：総記、1：哲学・宗教、2：歴史・地理、3：社会科学、4：自然科学、5：技術．工学、6：産業、7：芸術．美術・スポーツ、8：言語、9：文学、のうちから最も適切な分類に区分します。**第一次区分**は「**類**」と呼ばれ、4の自然科学は4類、9の文学は9類といいます。日本画は美術ですから、第一次区分では、芸術．美術・スポーツの７類に分類されます。

10あった類の中から７類を選びましたが、その７類の中にもさらにまた10の**第二次区分**（「**綱**（こう）」）があります。7類の綱は、0：芸術．美術、1：彫刻、2：絵画．書道、3：版画、4：写真．印刷、5：工芸、6：音楽．舞踏、7：演劇．映画、8：スポーツ．体育、9：諸芸．娯楽、となっており、日本画についての資料は、２の絵画．書道に入ります。第二次区分の２綱にもさらに10の**第三次区分**（「**目**（もく）」）があり、下の表のとおり１の日本画に分類します。

第一次区分に10の類、そしてそのひとつひとつにそれぞれ10の綱、さらにまた10ずつの目、ということで1,000の分類ができるわけです。

さて、ここまでで日本画についての資料は「７２１」に分類されることがわかりました。「７２１」の日本画の中の分類はさらに細分化されているので、扱われている主題がもっと細かく具体的なもの、例えば浮世絵についての資料であれば、「７２１」のあとに「.（ピリオド）」

（次頁下段に続く）



日本十進分類法の展開例

「類」	「綱」	「目」
0：総記		
1：哲学・宗教		
2：歴史・地理		
3：社会科学		
4：自然科学		
5：技術．工学		
6：産業		
7：芸術.美術・スポーツ	70：芸術．美術	720：絵画
	71：彫刻	721：日本画
	72：絵画．書道	722：東洋画
	73：版画	723：洋画
	74：写真．印刷	724：絵画材料・技法
	75：工芸	725：素描．描画
	76：音楽．舞踏	726：漫画．挿絵．童画
	77：演劇．映画	727：グラフィックデザイン．図案
	78：スポーツ．体育	728：書．書道
	79：諸芸．娯楽	729：（なし）
8：言語		
9：文学		

ラベル

分類番号

721.8
A47

著者を表す記号

平成16年度の事業予定について

総合資料館は、昨年度、開館40周年を迎え、皆様のご支援により各種事業を開催することができました。

今年度も引き続き「京の文化振興プラン」に基づき、先にご紹介した「デジタル発信事業」を始め、所蔵資料のより一層の保存・活用に向けた各事業を実施しますので、ご期待願います。

今年度の講座・展覧会の開催予定は次のとおりです。

◆講　座

平成14年度からスタートした**「総合資料館府民講座」**は、歴史や伝統文化、館蔵資料紹介等の多彩なテーマで、年間８回程度開催する予定です。（５月、６月の開催予定は12頁に記載）

同じく14年度から開始した**「古文書解読講座」**についても、実施時期は変わりますが、昨年度と同様、「初心者コース」と「一般コース」に分けて、各２回ずつ開催する予定です。

なお、古文書の内容や解読についてのご相談をお受けする**「古文書相談」**についても、引き続き毎月開催しますので、事前にお申し込みください。

◆展覧会

今年度は、秋に恒例の**「東寺百合文書展」**を開催するほか、２～３月にかけて企画展を予定しています。また、夏には、普段目にしていただく機会の少ない収蔵品をご覧いただく**「収蔵品展」**を開催する予定です。

これら各事業については、詳細が決定次第、「総合資料館だより」、「府民だより」等のほか、当館のホームページでも順次ご案内しますので、奮ってご参加願います。

平成16年度　総合資料館の年間事業予定

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
講座	総合資料館府民講座	年間８回程度開催											
	古文書解読講座								初心者コース ①②	一般コース ①②			
展覧会		平15年度収蔵品展 →～4/11			収蔵品展 ↔			東寺百合文書展 ↔				企画展 ↔	

注：現時点での予定であり、変更することがあります。

をつけて「７２１．８」のように分類することもできます。「７２１」、「７２１．８」は、「ナナ・ニ・イチ」、「ナナ・ニ・イチ・テン・ハチ」と読みます。この数字を分類番号といい、図書の背に貼られたラベルに印字されます。

今までご説明してきたのはNDCの『本表』を用いて、分類体系にのっとって分類番号を知る方法でした。それ以外にもNDCには『相関索引』というものがあり、これを用いて、分類番号を求めることもできます。『相関索引』には主題を表す言葉が五十音順で並んでおり、その主題がどんな分類番号になるか調べられます。先程の浮世絵について引いてみると「７２１．８」とあり、ここに分類されることがわかります。

初めに述べたように、日本十進分類法は日本の大部分の図書館で採用されていますので、その仕組みについて知っておくと、資料を探す際に便利です。

また、日本十進分類法の『本表』・『相関索引』は資料館の閲覧室にも置いてありますので、興味を持たれた方は一度ご覧下さい。

行政文書に見る京都

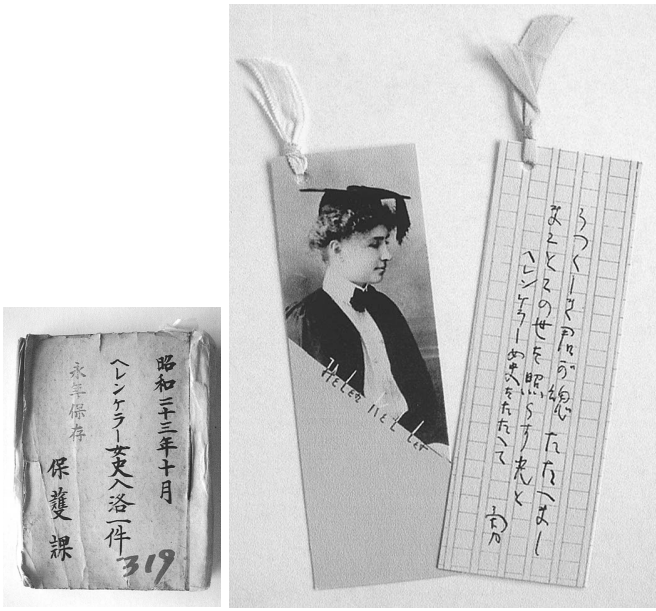
ヘレン・ケラーと京都の福祉

ヘレン・ケラーはその重い障害を乗り越え、世界各地を訪問し、多くの人々に希望を与えました。彼女はこの京都にも３度訪れ、京都の身体障害者福祉の進歩に影響を及ぼしています。

彼女が初めて京都を訪れたのは昭和12年５月でした。２日間の滞在中、堀川高女、第一高女、同志社栄光館（現在の堀川高校、鴨沂高校、同志社女子大学）に集まった大勢の聴衆の前で講演を行いました。このことは、府民の身体障害者福祉に対する関心を一気に高めます。そしてその関心を力にして、京都の福祉は理想に向けて進歩の兆しをみせました。しかし残念ながらこの時は、戦争のためその動きは中断されてしまいます。

昭和23年10月、ヘレン・ケラーは再び京都を訪れます。この時の様子は、京都府庁文書「ヘレン・ケラー女史入洛一件」（昭23-319）でうかがい知ることができます。この時、彼女はマッカーサーの主賓として来日し、ヘレン・ケラー・キャンペーン事業として、全国10数箇所を訪問しました。この頃マッカーサーのもとで進められていた民主化への行政改革のため、彼女のもつ楽天的努力主義の精神を国民に伝え、国内の身体障害者に大きな光明を与えることが、この事業の目的でした。その結果、人々の身体障害者福祉への関心は再度高まり、昭和24年には身体障害者福祉法が公布されました。

京都府でもこの訪問を機に、いくつかの施設が設置されました。昭和23年、左京区下鴨に設置された視覚障害者更生施設京都府立京都寮もその中のひとつです。この地は同朋援護会の学生寮でしたが、廃止されることを知ると、京都府はぜひ寄附してほしい旨申し出ました。それが無理ならば予算をつけるので、それまで他へ譲らず待ってほしいと依頼しています。このように京都府が京都寮設置に熱心だったことが、京都府庁文書「京都寮一件」（昭24-378）から知ることができます。



▲「京都府庁文書 昭23-319」の表紙と、中に挟まれている、来日記念に作成されたと思われるしおり（左：若き日のヘレン・ケラー、右：吉井勇作のうた）

京都寮では、基本的な生活訓練、鍼灸按摩などの職業訓練、文化教養の向上を図るための点字出版、各種講習会などを開催するに留まらず、結婚、家庭その他あらゆる身の上の諸問題に応じ、解決できる、視覚障害者の「パラダイス」となることを目指しました。

その後昭和30年には、障害者の保護にのみ偏りがちになることを反省し、自立や社会参加を支援する福祉を実現すべく、事業の見直しを行いました。この年、最後に京都を訪れたヘレン・ケラーの歓迎特別講演会の席上で、京都府知事がそのことを報告しています。

ヘレン・ケラーの訪問は、障害のある人の大きな力となったことでしょう。そしてまた、よりよい福祉のためには、障害のない人の理解を得ることが重要といいますが、そういう意味で、実際に彼女の人柄に触れるという体験は、どんな言葉よりも強く府民の心を掴んだのではないでしょうか。

最近の収集資料から（平成15年12月～16年2月）

◆図書資料

〈京都〉

下鴨神社と糺の森　世界文化遺産　賀茂御祖神社編　淡交社　2003　165ｐ

京都の寺社と豊臣政権　伊藤真昭著　法蔵館　2003　248ｐ

維新　京都を救った豪腕知事　槙村正直と町衆たち　明田鉄男著　小学館　2004　255ｐ

丹後国古札七七選　城下嘉昭著刊　2003　79ｐ　寄贈

京・まちづくり史　高橋康夫、中川理編　昭和堂　2003　246,4ｐ　寄贈

元離宮二条城　京都新聞出版センター編刊　2003　55,5ｐ

炎との饗宴　丸田明彦著　柴田書店　1995　327ｐ　寄贈

京の庭　重森千青著　ウエッジ　2003　156ｐ

墨絵京都ふたり旅　名画探訪　松尾芳樹著　日貿出版社　2003　196,16ｐ

行手は北山その彼方　京都一中（鴨沂高校・洛北高校）山岳部85年の歩み　京都一中山岳部史編纂委員会編　北山の会　2003　274,18ｐ

伊根浦の年寄りたちが伝える海辺の方言　舟屋の里老人クラブ連絡会編刊　2003　123ｐ　寄贈

上方雑俳　京ことば辞典　木村恭造編　洛西書院　2004　184ｐ　寄贈

〈人文〉

大谷文書集成　第３巻　小田義久責任編集　法蔵館　2003　248,63ｐ　寄贈

龍門文庫　知られざる奈良の至宝　特別陳列　奈良国立博物館編刊　2002　105,7ｐ　寄贈

地方史研究の新方法　木村礎、林英夫編　八木書店　2000　268,31ｐ

特別陳列新選組　史料が語る新選組の実像図録　京都国立博物館編刊　2003　135ｐ

番付で読む江戸時代　林英夫、青木美智男編　柏書房　2003　455,70ｐ

平安時代の信仰と宗教儀礼　三橋正著　続群書類従完成会　2000　801,16ｐ

截金　金箔芸術の美と技法　松久真や著　宮野正喜写真　淡交社　2003　126ｐ

欧文書体百花事典　組版工学研究会編　朗文堂　2003　546ｐ

日本のステンドグラス　彩色玻璃コレクション　増田彰久写真　藤森照信文・解説　朝日新聞社　2003　272ｐ

浮世絵風景画名品展　ホノルル美術館所蔵　小林忠監修・作品選定　国際アート　2003　263ｐ　寄贈

青木繁と近代日本のロマンティシズム　青木繁他　東京国立近代美術館、石橋財団石橋美術館、日本経済新聞社文化事業部編　日本経済新聞社　2003　229ｐ　寄贈

〈官庁〉

舞鶴市議会の歩み　舞鶴市議会60年史　舞鶴市議会60年史編集委員会（幹事会）編　舞鶴市議会　2003　483,14ｐ　寄贈

京都消防　55年の歩み　京の安全と安心を目指して　１９４８～２００３　京都市消防局編　京都市防災協会　2003　79ｐ　寄贈

ひらけゆく農地のびゆく丹後　農業農村整備情報総合センター編　近畿農政局丹後開拓建設事業所　2003　348ｐ

三峠・京都西山断層帯に関する調査成果報告書　京都府編刊　2003　128ｐ

東京都老年学会誌　第10巻　東京都福祉局総務部職員課研修係　東京都老人総合研究調整部広報・普及担当編　2004　224ｐ　寄贈

21世紀型の社会保障の実現に向けて　社会保障審議会意見書（平成15年6月）　社会保障将来像研究会編　2003　248ｐ

高年齢者雇用対策の推進　厚生労働省職業安定局編　労務行政　2003　550ｐ

製造基盤白書　2003年版　経済産業省、厚生労働省、文部科学省編　2003　311ｐ

◆文書資料（新しく公開する資料）

大國家文書　近世の地下官人大國家に伝来した資料。739点。日記、宮中行事の記録、陰陽師の活動や組織に関する資料、明治初期奈良県の資料、議員任命書・各種団体委員等の委嘱状など。寄託

大國家文書・乙　近世の地下官人大國家に伝来した資料の寄託の第２次分。1点。永禄２(1559)年に正親町天皇の即位にあたって大國家が髪飾りを調進したことを殊勝に思い、陰陽師としての権利や諸役免除を認めたもの。寄託

大國家由緒書　近世の地下官人大國家に伝来した資料。その家の系図/由緒書。2点。マイクロ収集

飯島氏旧蔵京都関係文書　丹波国何鹿（いかるがぐん）郡小呂村（綾部市）の年貢割付、同村高倉社の祭礼など神事に関する一件、寛永10(1633)年紀伊郡竹田村の加茂川橋掛の勧進の一件、上三栖村に設置された太政官制札ほか。26点。寄贈

臨時休館のお知らせ

所蔵資料の点検・整理等のため、次のとおり臨時休館しますので、ご了承くださるようお願いします。

◆休館期間

4月12日（月）～23日（金）

総合資料館府民講座のお知らせ

◇５月27日（木）　午後２時～

上島享氏（京都府立大学文学部助教授）

演題「中世の人々は『日本』をいかに認識していたのか」

◇６月24日（木）　午後２時～

森西真弓氏（立命館大学教授、上方芸能編集長）

演題「世界遺産・文楽の魅力（仮題）」

受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、３日前までに、はがき又はＦＡＸでお申し込みください。

＊満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館　庶務課

TEL 075-723-4831　FAX 075-791-9466

収蔵展示室の一般公開

当館３階の収蔵展示室において、歴史・民俗資料等の一般公開を行います。

５月26日（水）～５月28日（金）

午前９時30分～午後４時30分　入場無料

問合せ先：京都府京都文化博物館学芸第一課

TEL 075-213-2893

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解読についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問合せください。

問合せ先：当館歴史資料課

TEL 075-723-4834

友の会事務局から

平成16年度の友の会は、2月末現在で288人の方にお申し込みいただいています。

友の会に入会いただきますと、資料館だよりや古文書解読講座の案内をお送りし、また、現地講座やバス旅行などにご参加いただけます。

随時申込みを受け付けています。多数の方の入会をお待ちしております。

問合せ先：友の会事務局

（当館庶務課内　TEL 075-723-4831）

日　誌（平成15年12月～16年2月）

11. 8(土)　開館40周年記念「総合資料館名品展」開催 ～12.7(日)

12. 4(木)　府民講座（第16回）開催

1.27(火)～30(金)　第２回古文書解読講座（初心者Ａコース）開催

1.30(金)　茨城県議会予算特別委員会県外調査

2. 3(火)～6(金)　第２回古文書解読講座（初心者Ｂコース）開催

2.17(火)～20(金)　第２回古文書解読講座（一般Ａコース）開催

2.24(火)～27(金)　第２回古文書解読講座（一般Ｂコース）開催

利　用　案　内

休館日　祝日（日曜日の場合は、その翌日）、毎月第2水曜日、資料整理期（春季）、年末年始（12月28日～1月4日）

【４月～６月の休館日】

４月12日(月)～４月23日(金)、４月29日(祝)、５月３日(祝)～５月５日(祝)、５月12日(水)、６月９日(水)

開館時間　午前９時～午後４時30分

交　　通　京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車

市バス④、北８　北山駅前下車

京都バス㉘、㊺、㊻　前萩町下車

ホームページ

http://www.prof.kyoto.jp/shiryokan/

発行　京都府立総合資料館　〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町１の４

京都府立総合資料館友の会（振替　01030-2-11991）　TEL(075)723-4831　FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています